

ボランティア・市民活動を広げ、応援する！▶

ネットワーク

特集

『インクルーシブ教育』第1弾
療養中の子どもの学びを考える



市民社会のミライに向けて

市民社会をつくるボランティアフォーラム TOKYO2025 報告

ボランティアフォーラム担当

二十余年にわたって開催しているこのイベントは、毎年、「いま」の社会課題を切り取り、みんなで考える場として企画しています。今年も多くの方が参加しました。その様子をレポートします！

キャッチフレーズはVamos!

2月8〜9日、「市民社会をつくるボランティアフォーラムTOKYO2025」を開催しました。この催しは、私たちの暮らしにかかわるさまざまな社会問題に焦点をあて、私たち市民にできることを考えようと、2004年からスタート。私たち一人ひとりがボランティアや市民活動に関心を持ち、よりよい市民社会を実現するために考え、行動するためのきっかけとなるような場を目指しています。

企画運営は実行委員会形式で、さまざまな分野や地域、セクターから集まったボランティアや市民活動に関わるメンバーで構成されています。実

行委員は、潜在する社会問題に対する「考え、行動する力」を高めるために、問題意識をもち寄り、分科会を企画し、社会課題を発信しています。

「ボランティア元年」と呼ばれた1995年の阪神淡路大震災から30年の節目となり、この間、ボランティアや市民活動は多様な役割を求められるようになりました。そこで市民社会の未来を見据え、一人ひとりが希望を持ってともに歩んでいきたいという思いから、今年のキャッチフレーズを「Vamos! 市民社会のミライ」そのときわたしたちは何をしているだろうか?」にしました。Vamosにはスペイン語で「さあ、行こう」や「がんばれ」という意味があります。



(右上) 分科会6「『無機質な住民』から『彩りのある市民へ』」。商店街にてフィールドワーク。地元住民の参加者にも新しい発見が！ (右中) 分科会4「もっと知りたいデフリンピック」。全分科会で情報保障として文字を表示したほか、この分科会では手話通訳者を派遣。(右下) 特別企画「ネットワーク原画展」。(左上) ふれあい満点見本市の様子。(左中) 当日ボランティアの皆さん。「分科会を聴講できて学びになった」「2日間の活動で自信につながった」などの感想をいただいた。(左下) 分科会16「障がい者の思いと心のバリアフリー」。参加者が対面で話し合った。

多様なテーマの分科会を企画

当日は、17の分科会と交流会、クロージング、特別企画を開催。

分科会企画は、「居場所づくり」「予期しない妊娠」「デフリンピック」「学生サミット」「多文化共生」「セカンドライフ」「こどもかいぎ」「能登のいま」など、多様なテーマを企画しました。また、今年の交流会では、コロナ禍の時期には控えていた軽食を囲み、リラックスした雰囲気

で自由な語り合いができました。
特別企画のふれあい満点見本市では、ボランティアグループ、NPO・NGO、福祉作業所の方の手作り作品の「展示・販売ブース」に加え、団体の日ごろの活動を体験する「体験ブース」を初めて開催しました。

分科会の参加者は695名(出演者・スタッフ含む)。見本市の出展団体数は2日で23団体、ブースに立ち寄った人は600名を超えました。

みんなでつくり上げるイベント

ボランティアフォーラムは、実行委員、当日ボランティア、出演者や参加者の方々、当センターのスタッフが課題や思いを共有し、できることを考える場であり、みんなでつくり上げていく催しです。

実行委員は年度明けから何度も打ち合わせを重ね、一人ひとりが「考え、行動する」きっかけとなるよう企画を組み立てていきました。ボランティアフォーラムは来年も開催する予定ですので、当日参加はもちろん、実行委員や当日ボランティアとしてのご参加もお待ちしております！



『インクルーシブ教育』第1弾

療養中の子どもの学びを考える

- 5 外の世界を魅力的に、学ぶ楽しさを引き出す
◇松本 健太郎 認定 NPO 法人 スマイリングホスピタル ジャパン「SHJ 学びサポート」コーディネーター
- 9 編集部ページ

- 1 市民社会のミライに向けて 市民社会をつくるボランタリーフォーラム TOKYO2025 報告

- 11 **【新連載】**
浅掘りメモ！近ごろ気になるコトバたち

- 12 **東京しまじま物語** 三宅島の巻
「希望とキモチ」を届けるボランティア活動へ

- 13 **レポート**
都民の“V活” ～都民のボランティア活動等に関する実態調査より～

- 15 第10回『企業ボランティア・アワード』受賞企業が決定！

- 19 **せかいをみる⑬**
ミネアポリス今昔物語『暮らしの中のボランティア』【2】
◇河村 暁子 東京ボランティア・市民活動センター

- 21 ～故・吉澤英子先生一周年の集いに寄せて～
コーナー、センター時代の吉澤英子先生の思い出
◇渡戸 一郎 東京ボランティア・市民活動センター運営委員長

- 22 **TVAC News** 東京ボランティア・市民活動センターの事業から
地域の居場所づくりに関する実態調査 2024〔速報版〕
大学におけるボランティア活動支援に関する全国実態調査〔速報版〕

- 25 **いいもの みい～つけた！ Vol.53**
可愛い♪美味しい♪嬉しい♪
アニマルコーヒー
◇社会福祉法人 江戸川菜の花の会
江戸川かもめ第二事業所（分室）HiwaHiwa

表紙のことば

私はここにいるだけなのに
地球が回って、宇宙が回って、毎度の春。
植物も生きものも祭りのように急いで成長し繁殖する。
私は今年も
遊園地のティーカップの中のように目を回している。
ーフローラル信子

もしもボランティア活動中にケガをしたら… ケガをさせたり、物を壊したら…

※ボランティア保険および行事保険の加入は、東京都内の各区市町村のボランティアセンターまたは東京都社会福祉協議会窓口で手続きができます。



東京都社会福祉協議会指定生損保代理店
有限会社 東京福祉企画

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂1-2
研究社英語センタービル 3階

TEL. 03-3268-0910
FAX. 03-3268-8832





『インクルーシブ教育』第1弾

療養中の子どもの学びを考える

入院や退院後の療養のために、学校に行きたくても行けない子どもたち。
体調を気遣い、ときに治療のつらさと闘う子どもには、
学習の遅れや将来に対する不安がつねにつきまとう。
そうした子どもに寄り添い、学力の向上とともに自分で将来を選択できるよう、
エンパワメントし続けるかかわりは欠かせない。

本特集では、
病気や障がいなどにより長期療養する子どもの学びを取り上げた。

取材では、難病や障がいのある子どもを支援するスマイリングホスピタルジャパン
の松本健太郎さんに、学びの本質を語っていただいた。障がい児教育の経験から得
られた子どもとの向き合い方は、病気療養中の子どもに対する支援とも重なる。
そして、編集部ページでは療養中の子どもの学びの受け皿である特別支援教育につ
いて概要を整理した。

医療の進歩により治療期間が短縮され在宅の時間が増えるなど、療養中の子どもを
めぐる環境はますます多様になっている。子ども一人ひとりに寄り添った学びの場
づくりに向けて、わたしたちに何ができるのか。編集部では第2弾を組む予定だ。

*インクルーシブとは、すべてを包括する、包み込むという意味。文部科学省では、共生社会
の実現に向け、障がい者の権利条約にもとづいたインクルーシブ教育システムの構築をめざ
し、その一環として特別支援教育を推進している。



外の世界を魅力的に、
学ぶ楽しさを引き出す

認定NPO法人 スマイリングホスピタルジャパン

スマイリングホスピタルジャパン（以下SHJ）は、「Happiness Helps Healing」「楽しむことは治療を助ける」を理念に掲げ、「難病や障がいと闘う子どもたちにワクワクの時間を届ける」ことを目指し、定期活動、参加型活動、個別活動、質の高いプロのアートという4つの軸を掲げて活動をしている団体です。

2012年に神奈川県立こども医療センターへの訪問を開始し、プロのアーティストボランティアが定期的に個室およびプレイルームを訪問して活動しています。さらに、SHJでは在宅で療養する重症心身障害児に対する学習サポートも行っています。今号では、学習サポートについて、「SHJ学びサポート」コーディネーターの松本健太郎さんにお話をうかがいました。

「学びサポート」をはじめたきっかけ

病児だけでなく、障がいのある子どもたちも「学ぶこと」への難しさがあります。特別支援学校の教師として子どもたちと向き合う中で、SHJの新事業立ち上げのタイミングで、東京都立永福学園の肢体不自由



(右ページ) 視線入力による塗り絵(上) 音楽活動。

子どもたちから教えてもらう 学びの本質

現在、対象の子どもたちは17名で、現役の教員や言語聴覚士などの専門性を持つ7名のメンバーと一緒に活動しており、1人につき月1回、利用者宅を訪問しています。

教育部門高等部の卒業生2名を対象に2018年から活動をスタートしました。本人が学びたい内容を中心に学習環境と一緒に工夫しながら個別のゆとりとした学び合いの実現を目指しています。私が高等部時代に担任していた卒業生への「学びサポート」から始めましたが、現在は在校生や就学前の子どもも利用しています。

私自身のお話をさせていただくと、私は数学の教師として青年海外協力隊に参加し、ホンジュラスに3年赴任しました。その時に障がい児教育をしている隊員が困難さの背景に寄り添い工夫して学びを進めている姿を見て、教育の本質はここにあるのではないかと思いました。その体験を機に、人が学ぶということの根本に立ち返って、学びを追求したいと考え、特別支援教育に携わるようになりました。

学ぶプロセスは実はみんな同じだと考えています。私も皆さんも産声を上げた時から、外の世界にあるものや動きをキャッチし、自分の目や手を使って反応し、新しい学びをしてきました。自分自身が外の世界に働きかけることで、外の世界が反応する、そのような連鎖を通して学びを深めてきたと思います。

障がいがある場合、外の世界とのやり取りに困難が生じます。例えば目が見えている人が目を閉じると外の世界から届く情報が極端に制限され、外の世界が混沌とし不安になるとともに興味も湧かず、学ぶ楽しさにつながりません。まずは視覚などの感覚を通して、外の世界に関心を持つてもらえるよう環境を整えることが大切になります。情報がどのような手段で彼らに届くのか、やりたかったことができる身体状況であるのか、やりたいという気持ちを意思表示できるのか、など一人ひとりの状況はさまざま。このような状況が配慮されていなければ「学ぶ」ということは難しくなってしまう。そのため、外の世界を分かりやすく提示し、関心を持ってもらえる教材を開発しています。

教材は子ども一人ひとりと向き合いながら作成します。持参した教

学びサポートを利用する

親御さんの声

数の学習では、前半充分に基礎学習を行なってから後半、丁寧に数の学習が始まります。木製のブロックを使い目と手と耳と頭を使い学習します。こちらのはじめの頃は時間もかかり、集中力も途切れ飽きてしまう事も多かったけれど、今では与えられた問題に集中し、わからない事には「わからない」と発言できるようになりました。「学びサポート」の活動がもっと広がって、不自由な生活を余儀なくしている子どもたちに学びの大切な時間が増えていくと良いなあと思います。

『バリアフリー みんなの教材図鑑

～「自分でできる」を支えるために～

困難さがある子どもが自分でできるような教材を紹介している。子どもたちから学んだことや、先輩の知見をもとに実践を重ねて、松本さんがまとめたもの。



材に関心を示してくれて、心の中でガッツポーズが出る日もあれば、全く関心を示してもらえず、改良を重ねる日々もあります。毎回毎回、いろんな気づきを彼らが教えてくれます。子どもたちから学ぼうとする姿勢がなければ教育は停滞するのではないのでしょうか。

子どもたちの主体性を 守ること

子どもたちの「触ってみたい」「面白そう」「知りたい」という自発的な気持ちがあつてこそ学びは始まり、深まります。重い障がいの子どもは、内面にも障がいがあるように思われがちですが、実は内面はとても豊かです。けれども、興味や関心を人に伝えることができない子どもも少なくありません。

彼らの自発的な気持ちを引き出し、キャッチし、一緒に学んでいくことが、私たちの役割で一人ひとりに合った「学ぶ環境」が整えば自ずと学びは深まっていくのだと思います。

S H Jでは、対象者の人数を増やすことよりも、じっくり学びを支えることを目指しています。そのため、支援者育成の一助となるように見学

者も積極的に受け入れています。各地域でこのような取り組みが広がっていくよう願っています。

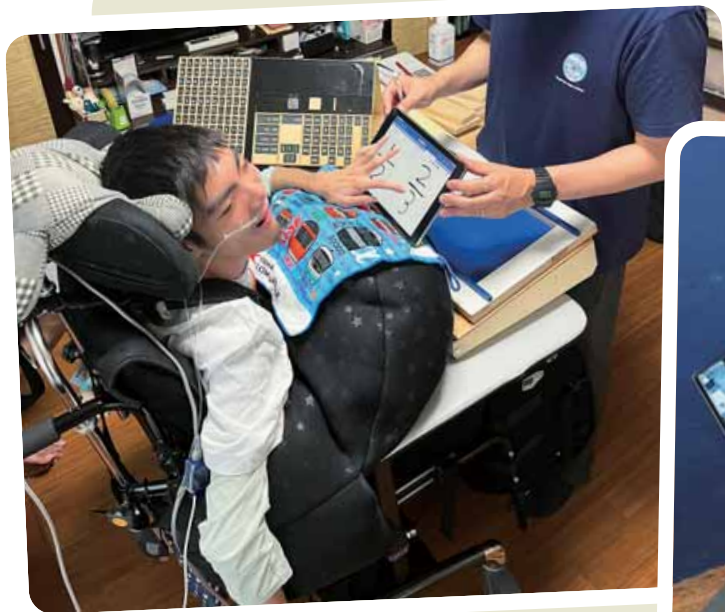
「学ぶことは生きること」とよく言われますが、子どもたちがさまざまな制約により、困難な状況に置かれていたとしても「この方法なら、私ができる」と実感していただきたいし、支援者の皆さんには、必ず学びを進める方法があることを知っていただきたいと思います。

認定NPO法人

スマイリングホスピタルジャパン



2012年に法人設立。入院、施設入所児・者と芸術活動を共有するために、プロのアーティストボランティアが定期的に個室およびプレイルームを訪問している。2018年より、在宅で療養する重症心身障がい児に対し、訪問による学習サポートを開始。



(右上から時計回りに)

①見やすく打ちやすいキーボードを使った文字入力練習 ②教材を使った空間概念形成の学習 ③文字盤と教材を使った算数学習 ④教材を使ったひらがな練習 ⑤文字盤とタブレットを使った分数の学習。



特別支援教育の概要

小中学校等		特別支援学校
通級による指導	特別支援学級	
大部分の授業を在籍する通常の学級で受けながら、一部の時間で障害に応じた特別な指導を実施	(小・中学校において)障害の種別ごとの学級を編制し、子供一人一人に応じた教育を実施	障害の程度が比較的重い子供を対象として、専門性の高い教育を実施

たとえば、
どんな病気の子ども？

慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、小児がん、白血病や腫瘍、心臓病のほか、心身症、精神疾患などがあります。こうした子どもたちの状態を制度上は「病弱・身体虚弱」といいます。ちなみに、「病弱」とは心身が病気のため弱っている状態をいい、「身体虚弱」は病気ではないが身体が不調な状態が続き、病気にかかりやすいといった状態を指します。このような状態が継続して起こる、または繰り返し起こる場合に用いられます(文部科学省ホームページより)。

一人ひとりに寄り添う
学校教育を
「特別支援教育とは」

小児がんのように治療が長期にわたる疾患もあれば、病状に応じて入院が生じる疾患、また退院後も自宅療養を必要とするなど、子どもが抱える疾患はさまざまです。一人ひとりの子どもの状態に対応しながら学校教育の機会の提供を目指す制度が、特別支援教育です。

特別支援教育は、「病弱・身体虚弱」

をふくむ、視覚障害、知的障害、聴覚障害、肢体不自由のほか、自閉症・情緒障害、言語障害、学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)など障害のある幼児・児童・生徒を対象としています。

それぞれの障害(病状)の程度に応じて、特別支援学校に在籍、通常の小中学校の特別支援学級に在籍、あるいは通常の学級で授業を受けながら特別指導(通級による指導)を受けるなど、多様な学びの場において適切な指導及び支援の実施を目指しています¹⁾。

特別支援学校の多くは、小・中・高等部があり一貫教育が行われています。病院に隣接あるいは併設されることが一般的ですが、学校と病院が離れている場合は病院内に分校や分教室を設置したり(院内学級)、自宅や施設への訪問教育を行ったりしています。医療や生活上の管理を必要とする子どもに寄り添って、教員などの体制、学習方法や時間配分、教材等を工夫しながら学びの場がつけられています。

入院や退院後の療養中の子どもは、
期間の長い短いはあるけども、
学校という通常の学習環境で学ぶことができない時期があります。
そうした状況にある子どもにはどのような学びの場があるのでしょうか。
ここでは、学校教育の制度、特別支援教育について調べてみました。

特別支援教育を受ける子どもは増加

2023(令和5)年度の児童・生徒数は、全国で約941万人となり、10年前よりおよそ1割減少しました。一方で、特別支援教育を受ける児童・生徒数は約64万人(全児童生徒数の6.8%)とおおよそ2倍に増加しました。このうち、「病弱・身体虚弱」に該当する児童・生徒数は特別支援学校在籍者約19,300人(幼稚部、高等部を含む)、特別支援学級在籍者約4,200人、通級による指導を受ける児童・生徒は約100人となっています。

＊特別支援教育を受ける児童・生徒の在籍者数(令和5年度) 人数は*1より

		在籍者数合計	病弱・身体虚弱
①特別支援学校		約85,000人	約19,300人 *幼稚部,高等部含む
小中学校等	②特別支援学級	約373,000人	約4,200人
	③通級による指導 *令和3年度調査	約182,000人	約100人
合計		約640,000人	—

東京都による病院内教育
「分教室」と「病院内訪問」

東京都が実施する病院内教育は、「分教室」と「病院内訪問」の2つがあります。「分教室」が設置される病院は都内に10院あり、付近の特別支援学校や特別支援学級の一つとして設置されています。「病院内訪問」では、週5日を標準として、教員や病弱教育支援員が病院を訪問しベッ トサイド等で授業や学習支援が行われています。

多様な学びの場をどうつくり、継続し、復学後の学びをどう深めていくか。子ども一人ひとりの病状とともに治療や療養の環境によって柔軟な対応が求められています。

*1 「特別支援教育の充実について」文部科学省資料より。
*2 東京都内には病弱の子どもを受け入れる特別支援学校が都立5校、区立養護学校が3校ある。

浅掘りメモ！ 近ごろ気になるコトバたち

■ 人新世と種の絶滅

「人新世^{*1}」って、聞いたことがありますか？「人類が地球の気候や生態系に対して決定的な影響を及ぼすようになった」ために、地球がまだ経験したことのないような急激な変化にさらされるようになった時代、すなわち「現代」を指す言葉です。

生態系に関して言えば、密猟を含む乱獲や、開発による森や草原等の消滅、人間が持ち込んだ外来種による生態系の破壊などで、ここ200年ほどは、何万種もの動植物がつつぎと絶滅や絶滅危惧状態に追い込まれてきたとされ、今後は気候変動もこれに加担する形になりそうです。

結果として現在の動植物の絶滅は、すでに「過去の絶滅頻度の数百倍から数千倍のスピードで進んでいる」とされていて、生物史的には現在が「第6の大量絶滅期^{*2}」であるという認識が定説となりつつあるようです。

私たちの人口はまだ当分は増えつづけ^{*3}、その分、環境や生物へのダメージ圧も強まっていくことでしょう。仮に生物種の大半が減んだとしても全てが死に絶えるわけではないし、数千万年も経てばふたたび地球は多様な動植物でにぎわっていくでしょうが、その日を私たちは目撃できるわけではありません。

この流れを完全に止めるのはムリだとしても、少しでも傷を浅くする手立てはあるはず。そんなことも考えながら暮らしていきたいですね。

^{*1} 1万2千年続いた「完新世」は終わってしまった、という意味を込め、その次の時代という意味でこう呼ばれる。ちなみに読み方は「じんしんせい」または「ひとしんせい」で、まだ確定していない模様。

^{*2} 大量絶滅：地球史上、生物種の大半が急激に絶滅するような出来事が、現在を除いて5回ほどあったとされる。直近の大量絶滅は6600万年前のもので、巨大隕石が落ちてきて恐竜が一挙に死に絶えたことで有名。

^{*3} 国連の『世界人口推計 2024年版』によれば、世界人口は2080年代に103億人でピークに達すると予測されている。



■ DEI (diversity, equity, inclusion)



「多様性、公平性、包摂性」を意味するDEIという理念は、さまざまな人種や文化的背景の人が暮らす米国において、1950～60年代の公民権運動^{*1}を端緒として生まれてきたものだといえます。その後、「アフーマティブアクション^{*2}」や「障害者への合理的配慮」などの新しい考え方を生み出しながら、雇用・教育・地域社会などあらゆる分野に必要な理念として進化してきました。2020年のジョージ・フロイド事件^{*3}の後には、多くの企業がDEI推進部門を立ち上げたといえます。

しかしその後、「アフーマティブアクションは逆差別だ」とか「(差別発言の)表現の自由を奪うな」といった声がSNS等で目立つようになり、DEI的なものを叩く動きが急速に高まりました。

そうした中で誕生した第2次トランプ大統領が、就任初日に真っ先に署名した大統領令が「連邦政府内のあらゆるDEIプログラム等の即時停止」です^{*4}。これは2011年にオバマ大統領が発出した「連邦政府内の多様性と包摂性を推進する」大統領令を完全に覆すものでした。同時にトランプ氏は企業内のDEI撲滅も働きかけていくと宣言し、実際にそれ以降、社内のDEI部門を廃止する動きが大企業を中心に相次いでいるとのこと

^{*1} 黒人に対する人種差別の撤廃を求めた、米国における大規模な市民運動。一部の州で行われていた人種隔離政策や黒人に対する公民権制限を撤廃させ、大きな成功をおさめた。

^{*2} 積極的差別是正措置。たとえば雇用差別を受けやすい有色人種、障害者、女性などの層について雇用すべき最低人数をあらかじめ定めるなど、意図的・具体的な差別是正措置を行うこと。

^{*3} 米国ミネアポリス市で、黒人市民が白人警官により圧迫死させられた事件。全米および各国でBLM (Black Lives Matter; “黒人の命だって大切な”) 運動が勃興するきっかけとなった。

^{*4} さらにこの8日後には、これらを恒久的に廃止とする大統領令が署名された。

編集部が気になった言葉、
気になっていた言葉をピックアップして、
その文脈や背景のもろもろを調べて、
ちょっとした「メモ」として
書きとめていきます。





三宅島の巻

「希望とキモチ」を届ける ボランティア活動へ

東京には人が暮らす11の島があります。それぞれの島に住む人に、島での生活やコミュニティ、特長などについてご紹介していただく連載です。

東京から南へ約180km行くと、山手線の内側と同じくらいの大きさの島があります。そこが三宅島です。活火山の島で、2000年の噴火が記憶に残っている方も多いのではないのでしょうか。

そんな三宅島のボランティア活動はというと…活発に行われているとは言えないものでした。「このままではダメだ」と思い、新しいプロジェクトを始動しようとしていた矢先、新型コロナウイルス感染症という大きな壁に阻まれ、イベントなども軒並み中止となりました。

しかし、2020年夏に始まった東京ボランティア・市民活動センター主催の「リモート・ボランティア」で三宅島のボランティアは生まれ変わりました。この「リモート・ボランティア」は三宅島のボランティアにとって大きな希望となりました。島外のボランティア活動を島内で行えるおかげで、ボランティア活動や福祉教育の幅が大きく広がったのです。福祉教育の機会が増えたことで児童・生徒から「ボランティア活動をもっとやってみたい!」という、今までなかった声がたくさん届くようになり、開催すると例年の数倍の参加者が集まり、夏だけではなく冬にもボランティア活動を行えるプログラムを作りました。これを実

現させるためには、東京ボランティア・市民活動センターや、他社協職員、他団体の協力も必要不可欠でした。「三宅島のためならいくらでも協力するよ」と言ってくれたその言葉に、どんな時でも、どんな場所でも「希望とキモチ」を届けるボランティア活動を諦めてはいけないんだと、いろんな人に教えてもらいました。

だから三宅島は「希望とキモチ」を届ける活動をやめません。多くの人の「希望とキモチ」を届けます。もし、その「キモチ」が届いたら、ちょっと遠い三宅島に会いに来てください。その時は私たちと一緒に、どこかの誰かに「希望とキモチ」を届けましょう。その日を楽しみにしています。

(三宅島社協 石塚未奈)



小児難病利用施設へ贈るデコレーション制作ボランティア。



小児がん患者へ贈るメッセージカード制作。



イラスト：ひびのさなこ

都民の“V活”

都民のボランティア活動等に関する実態調査より



2024（令和6）年度「都民のボランティア活動等に関する実態調査」が東京都生活文化スポーツ局より発表されました。ボランティア活動推進のために、ボランティア活動への関心や取り組み状況などを把握することを目的とした調査です。

調査結果の概要から、要点をご紹介します。



● ボランティア活動への関心が高い10代

ボランティア活動に関心がある人は28・0％で、2022年の前回調査に比べ4・4ポイント減でした。年代別で見ると、10代がもっとも高く、50％近くがボランティア活動に関心があると回答しています。次いで70代という結果でした。

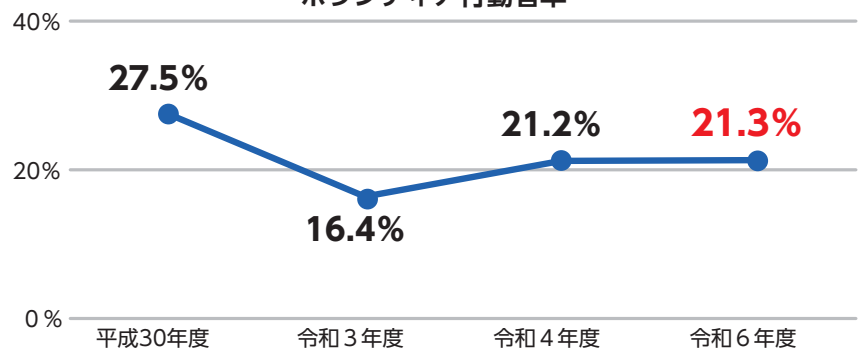
① 直近1年間にボランティア活動をした人の割合（ボランティア行動者率）は21・3％で前回調査比0・1ポイント増と、ほぼ同等です（図①）。

● ボランティア活動への満足度は60％以上！

② 今までにボランティア活動に参加したことのある人の活動に対する満足度は、『満足している・計』は65・1％、『満足していない・計』は19・3％でした（図②）。

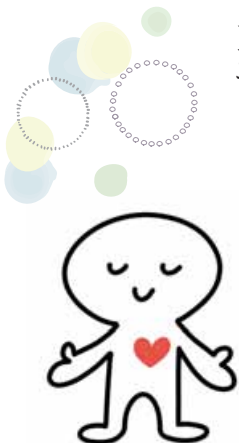
また、今までにボランティア活動に参加したことがある人のうち、ボランティア活動に参加したきっかけとして、最も高かったのは「通っている学校での授業や活動、行事を通じて」が25・7％（前回調査比4・9ポイント増）。そして、「自治会や子供会など地域の活動を通じて」が

ボランティア行動者率



①東京都生活文化スポーツ局 報道発表資料をもとに作成

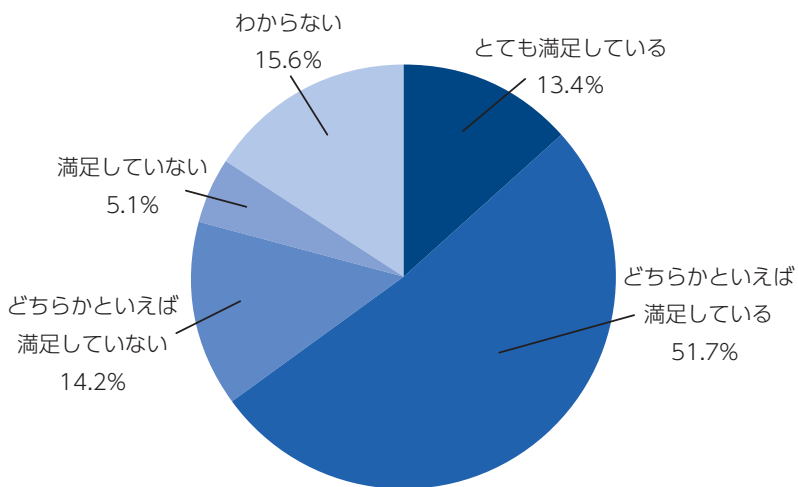
25・1％（前回調査比4・9ポイント増）、「家族・親戚・知人・友人の話を直接聞いて」が17・4％（前回調査比16・7ポイント減）と続きます。



ボランティア活動の満足度

(n=1,181は今までにボランティア活動に参加したことがある人)

- ・『満足している・計』は65.1%。
- ・『満足していない・計』は19.3%。



満足している・計 65.1%
満足していない・計 19.3%
n=1,181

(注)『満足している・計』は「とても満足している」「どちらかといえば満足している」の合計
『満足していない・計』は「どちらかといえば満足していない」「満足していない」の合計

②都民のボランティア活動等に関する実態調査 報告書をもとに作成

調査実施の概要

1 調査目的

東京都がボランティア活動等を推進する中で、都民におけるボランティア活動に関する取組状況等についての把握を行う。

2 調査項目

- (1) ボランティア活動について
- (2) ボランティア活動への参加のための支援について
- (3) 災害ボランティア活動について
- (4) 寄附について
- (5) ボランティア関連の施設や情報発信について
- (6) 東京都のボランティア活動推進に関する施策について

3 調査設計

- (1) 調査対象：東京都に住む満15歳以上80歳未満の男女個人
- (2) 対象者数：3,000人
- (3) 標本設計：令和6年1月1日時点での東京都内の15～79歳における、年代(15～19歳及び20～70代)ごとの性別・年代別構成比の近似値で回収を行った。
- (4) 調査方法：アンケートモニターに対するWebアンケート調査
- (5) 調査期間：令和6年10月1日～同年10月4日

●望まれる普及活動、体験・交流の機会

ボランティア活動参加に関して望む支援として、「ボランティア活動に関する普及活動(ボランティア団体の活動紹介のイベントなど)」が13・4%、次いで「ボランティア活動を体験・参加する機会の提供」が12・6%、「ボランティア同士が交

流・情報交換できる機会の提供」が10・5%でした。

●災害ボランティア活動等

そのほか、災害ボランティア活動については、今回初めての調査でした。災害ボランティアセンターの認知度として、同センターを「知っている」21・0%、災害時に災害ボラ

ンティア活動をしたと思う人は、33・5%でした。寄付については、(金銭の寄付を)「直近1年間にしたことがある」は23・3%、「直近1年間はないが、過去にしたことがある」が25・8%。

また、区市町村ごとに設置されている社会福祉協議会やボランティア

センターの認知度は17・9%、東京ボランティア・市民活動センターについて「知っている・計」は10・5%でした。

実態調査
報告書と
概要版





『縁結びの神様』東京大神宮のマツヤサロンで表彰式が開催された。

第10回『企業ボランティア・アワード』受賞企業が決定！

東京ボランティア・市民活動センターでは、2015年度より、企業で働きながらボランティア活動を積極的に行っている社員の皆さんたちの貢献を讃え、表彰する『企業ボランティア・アワード』を実施しています。今年で10年目を迎え、その認知度もだんだん高まってきたようです。今回受賞された企業の皆さんの活動をご紹介します！

「企業ボランティア」とは？

本センターでは、企業との関係の中で社員（または従業員）が行うボランティア活動、あるいは、その方々を「企業ボランティア」と呼んでいます。社員が自主的に同じ会社の同僚と一緒にボランティアをすることもあれば、会社で企画した社会貢献プログラムにボランティアとして参加することもあるでしょう。いずれにしても、社員の方々の意志で主体的に活動していることが大切です。

応募資格・選考委員会・選考基準

都内の企業で5名以上の社員がボランティア活動をしていると応募資格があります。社員の方や企業の社会貢献の担当者の方に応募していた

だくことができます。また、こうした企業ボランティアが活動している非営利団体が応募することも可能です。なお、活動の規模や継続年数は問いません。

選考については、本センターの外部の方々からなる選考委員会（※18ページ）が以下の3つの選考基準で評価しています。

- ①従業員がアイデアを活かして主体的に活動している。
- ②コミュニティや非営利団体のニーズに対応している。
- ③企業で働いている人たちが参加しやすい工夫がされている。

大賞は3社の企業ボランティアが受賞！

こうした3つの選考基準を基に高く評価された企業ボランティアが「大賞」を受賞します。

今回は以下の3社が選考されましたので、その活動内容を簡単にご紹介します。詳細については、それぞれのQRコードをご参照ください。

なお、大賞を受賞した企業には、表彰状とパートナーの非営利団体のために使える『活動奨励金』と本センターのオリジナル煎餅『ぼらせん』のメダルが授与されます。

■次世代を担う子どもたちのために
健康・医療について伝える

サノフィジャパン・グループCSRタスクフォースチームと社員ボランティアの皆さんは、経済的に困難な家庭の子どもたちを支援する認定NPO法人キッズドアからのリクエストに応え、夏休みに子どもたちを会社で招待しました。社員たちは、子どもたち自身が健康について正しく知ることの大切さを伝え、薬剤開発のワークショップを実施したり、社員が用意した14のブースで、薬やさまざまな仕事について説明しながら、交流しました。



サノフィジャパン・グループCSRタスクフォースチームと社員ボランティアの皆さんと認定NPO法人キッズドア

■子どもたちの『体験の格差』をなくす！

日本オラルクル株式会社社員ボランティアの皆さんは、長年おつきあいのある認定NPO法人Learning for Allが運営する子どもの居場所において、「体験の格差」を解消するような楽しく、学びのあるワークショップを社員ボランティアが企画し、実施しています。また、会社にも招待して、社員食堂で食事をしたり、オフィスツアーやワークショップをしたりして、多くの社員と交流しています。



日本オラルクル株式会社と認定NPO法人Learning for Allの皆さん

■森林再生×障がいのある方への
仕事創出プロジェクト

株式会社プロロジス社員ボランティアの皆さんは、NPO法人森のライフスタイル研究所の協力を得ながら、会社が開発した物流施設が立地する千葉県の八街市やちまたにおいて、障害者支援施設が保有する森の保全活動や畑の野菜を育てる活動を行いました。こうした活動は将来的に障がいのある人たちの仕事になります。活動終了後には施設で作っているお菓子をいただきました。今後も活動を継続していきます。



株式会社プロロジスとNPO法人森のライフスタイル研究所の皆さん

■特別賞は能登半島を支援した
3社の企業ボランティアに！

今年度の特別賞は能登半島の地震や豪雨の災害に対して、社員たちが積極的に支援活動を展開した以下の3社が受賞しました。

なお、特別賞を受賞した企業には、表彰状と盾、『ぼらせん』メダルが授与されます。

■能登半島地震の発災直後からの
継続的な支援

ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ JAPAN COMMUNITY IMPACT 震災支援プロジェクト社員ボランティアの皆さんは、昨年の1月1日に発災した能登半島地震に対して、奥能登・中能登など6つの社会福祉協議会と協働して、被災地でのボランティア活動を、全国の社員たちが行いました。また、被災地に行けない社員たちが参加できる「買うボランティア」も展開し、昨年の9月に起きた奥能登豪雨災害においてもいち早く被災地を支援しました。



■物資や金銭ではない
『心に寄り添う』支援の大切さ

住友三井オートサービス株式会社
能登半島地震被災地支援ボランティアの皆さんは、能登半島の珠洲市で活動している認定NPO法人ピースウィンズ・ジャパンに協力し、仮設住宅の入居者や在宅避難者の心に寄り添いながら支援活動を行ったり、能登復興祭の企画・運営をしたり、被災地の車両のメンテナンスを行うなど、日頃の仕事のスキルを活かして、支援活動を展開しました。



■災害ボランティアについて
座学での学びから現場実践へ

パナソニックグループ 従業員ボランティアの皆さんは、災害ボランティア活動支援プロジェクト※1と連携し、2019年から「災害ボランティア育成講座」を全国各地の従業員が受講しています。そして、2023年には豪雨で被災した福岡県久留米市で、従業員ボランティアが復旧活動に取り組みました。また、昨年の能登半島地震発災後、従業員が仕事で培ったスキルを活かし

たプロボノ的な活動で、災害ボランティアセンターの運営をサポートしました。



■奨励賞は留学生や若者を支援した
2社の企業ボランティアに！

奨励賞は、特徴あるボランティア活動をしている社員ボランティアの方々に対して、さらなる活動の発展を願い贈呈されます。今回は以下の2社が受賞しました。

なお、奨励賞を受賞した企業には、表彰状と盾、『ぼらせん』メダルが授与されます。

■『インクルーシブ社会奨励賞』

外国人留学生と
社員ボランティアが
オンラインで交流

『インクルーシブ社会奨励賞』は、障害のある方や外国ルーツの方など、多様性のある市民を包摂する社会づくりに貢献する活動に贈られます。

NECネットエスアイ株式会
社社員ボランティアの皆さんは、
2020年の秋から、NPO法人

COMPASSと連携しながら、東京大学の外国人留学生とオンラインでの日本語交流を開始しました。当時は新型コロナウイルスが拡大したため、留学生たちが日本人や日本の文化に触れる機会が少なくなったからです。1〜2週間に1度のペースで社員と留学生がペアになり、自国の文化や日本で働くことなど、自由なテーマでお話しています。



■『ユースサポート奨励賞』

視覚障がい者や高齢者のための
音声ナビを子どもたちと考える
ワークショップ

『ユースサポート奨励賞』は次世代の若者たちを支援するボランティア活動に贈られます。

パイオニア株式会社デザイン部
社員ボランティアの皆さんは、文京区教育委員会 教育推進部教育センターと連携し、小学生たちにUXデザイン※2の考え方を体験してもらうワークショップを2年前から開催しています。社員と子どもたちがチームになり、視覚障害のある方や高齢の方のための音声案内を考

え、実際に社員がそれを頼りに歩いてみます。この活動を通して、子どもたちにも社員にもさまざまな気づきがあるようです。



企業ボランティアの祭典 2025

選考委員長と司会から、大賞を受賞した企業の方とパートナーの非営利団体の方がインタビューを受ける。



表彰式は『縁結びの神さま』の 東京大神宮で開催

去る2月26日（水）の夜、東京ボランティア・市民活動センターの近くにある東京大神宮のマツヤサロンにおいて、『企業ボランティアの祭典』が開催され、その中で、記念すべき第10回『企業ボランティア・アワード2025』の表彰式も行いました。当日は、選考委員長と司会者から、大賞受賞企業とパートナーの非営利団体の方へのインタビューも行い、活動内容をより深く知ることができたのではないのでしょうか。

会場には、受賞した企業だけでなく、多くの企業関係者や非営利団体も参加し、名刺交換や情報交換も盛んに行われ、企業関係者と非営利団体のよい「ご縁」がたくさん結ばれたようです。

本センターでは、今後もこうした素晴らしい企業ボランティア活動の実践を広く社会に伝えながら、企業人のボランティア活動への参加や、企業と非営利団体の協働を促進していきたいと考えています。

※1 災害ボランティア活動支援プロジェクト（支援P）は、企業・社会福祉協議会・NPO・共同募金会が協働するネットワーク組織。2004年の新潟中越地震の後、2005年1月より中央共同募金会に設置された。平常時には、災害支援に関わる調査研究、人材育成や啓発活動を行うとともに、災害時には多様な機関・組織、関係者などが協働・協力して被災者支援にあたる。

※2 User Experienceの略。ユーザーの体験をデザイン（設計・企画）すること。ユーザーが商品を購入して、使用するまでのすべての体験をUXと表現する。



受付に飾られた『第10回企業ボランティア・アワード』のくす玉



休憩時間や閉会後に名刺交換する参加者の皆さん

【この件の問い合わせ先】

東京ボランティア・市民活動センター （企業担当）

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1

T E L : 03-6265-0272

E-mail : corporate@tvac.or.jp

ホームページ「企業・社員の方へ」
右記QRコード参照



『企業ボランティア・アワード』選考委員会

○立教大学名誉教授・東京大学特任教授（選考委員長）

中村 陽一 氏

○日本国際交流センター コー・ファウンダー&フェロー

勝又 英子 氏

○全国ボランティア・市民活動振興センター 副部長

河邊 裕子 氏

○東京都生活文化スポーツ局 都民生活部 地域活動推進課長

沼倉 護 氏

○一般社団法人 環境パートナーシップ会議 代表理事

星野 智子 氏



せかいをみる

アメリカには50の州があり、さまざまな文化をもつ人たちが暮らしています。1990年代にミネソタ州で研修し、現在も同地とつながりのある当センターのスタッフが前号に続き当時と今の市民たちの様子をご紹介します。

河村 暁子(かわむら・あきこ)

1989年より青少年のボランティア活動、ボランティア・コーディネーター研修、NPOの組織強化などを担当。2001年から企業の社会貢献や社員のボランティア活動を担当し、社会課題解決のために企業各社と非営利団体とをつなぐプロジェクトや、企業各社の新任・CSR研修を実施。



アメリカ合衆国

寄稿

ミネアポリス今昔物語 『暮らしの中のボランティア』〔2〕

河村 暁子

(東京ボランティア・市民活動センター)

前号で書いたように、30年

ほど「昔」に米国ミネソタ州のミネアポリス市のホームレス・シェルターで研修をし、人々が多彩なボランティアをしていることを学んで、東京ボランティア・市民活動センターに復帰した。その後、ミネアポリス市出身の男性と結婚し、時々、彼の家族や、私がお世話になったホストファミリー、友だちを訪問している。身近過ぎる事例かもしれないが、「今」のミネアポリス市民のボランティア的な生活について紹介したい。

●森と湖に囲まれて暮らす人々
米国の中西部にあるミネソタ州は「一万个の湖」というニックネームがつくほど、氷河期の爪痕と言われる湖がたくさんある。人々は湖の近くで暮らし、散歩やジョギング、

釣り、野外コンサート、アイスクリーム、クロスカントリーなどをして楽しんでいる(写真①)。

②のような、小さな本箱があちこちにある。近隣の人たちが読み終えた本を寄付して、読みたい人が持っていくって、返す仕組みのようだ。本を媒介として、地域の緩やかなつながりができているというのも素敵だ。

義理の兄はIT関係の会社で働きながら、休みにはこうした湖水地域の環境保護の活動に参加している。湖の水質調査をしたり、農場から汚染された水が流れ込まないように当事者や自治体と話し合ったり。また、湖上からの景観を守るために、家と湖の間に樹木を植えることになっているので、さまざまな木を育てては、無償で各家庭に配布している。

そんな地道な活動について自治体から表彰されたようだ。

●血縁ではなく

『意志』でつながった家族

義理の姉は7人きょうだいの、義理の兄は10人きょうだいの大きな家族で生まれ育った。2人の間には子どもがいないので、中国の一人っ子政策で農村部の女の子が捨てられて、中国の一人っ子政策で農村部の女の子が捨てられて、養子にすることにした。そして、障害のある男の子も養子にした。こうした国際的な養子縁組は珍しいことではなかったようだ。

北欧系の2人がまったく見た目が違うアジア系の子どもたちを育て、その女の子がス페인人の男性と結婚し、もうすぐ孫が誕生する。私は日本人で、米国、中国、スペインととても国際的な家族だ。みんなで集まると、それぞれの文化の料理や季節のイベント



② 近隣の人たちが貸し借りする小さな本箱。



① ミネソタ州に10,000個以上あると言われている湖。



③ コロナ禍でアジア系に対する嫌がらせに対して抗議する立て札。

トを楽しんでいる。「私たちの家族は『血縁』でつながっているのではなく、『意志』でつながった家族」と言った養子の娘の言葉が印象に残っている。

●料理を教えるのもボランティア？

義理の姉も兄もフルタイムで働きながら、料理を作るのが大好きだ。中国から養子にした息子（甥っ子）も大学生になり、地域のバスケットボール・クラブに所属し、アフリカ系アメリカ人（黒人）の友だちK君がいる。K君は家庭の問題もあり、失恋も重なって、甥っ子の家にクリスマスに遊びに来たそう。手作りの料理に感激し、義理の姉から料理を教わりたいうことになった。さまざまな料理と一緒に作っては、アパートに戻って、ルームメイトのためにも作っているらしい。私が教えたお好み焼きも作ってくれているかな。

●家の庭でメッセージを伝える

私がミネアポリスで出会った多様な人種・民族・文化の人たちは、家族や友だち、地域で仲良く暮らしているが、

新型コロナウイルスが中国から始まったとうわさが広まり、アジア系アメリカ人へのいやがらせやいじめなどが横行した。それに対して、義理の兄・姉の家では、写真③のように「STOP ASIAN HATE（アジア人へのいやがらせやめて）」という立て札を庭に立てている。

同じ様に、湖を散歩していると「BLACK LIVES MATTER（黒人の命は大切）」といった立て札もある。これは、黒人の男性が白人の警察官に取り押さえられ、暴力を受けて亡くなったという事件があったことに由来している。ミネアポリスでは大きな抗議行動があり、多くの市民たちが参加した。

●暮らしの中で、できることをする

ということ、あまりにも身近な事例だったが、他の家族や友だちも暮らしの中で、自分たちができることを、できるときに、自然体で行っている。米国にもいろいろな社会課題があるが、それを何とかしようと行動する人たちがからポジティブなエネルギーを渡米する度にもらっている。

【完】

「故・吉澤英子先生一周年の集い」に寄せて」

コーナー、センター時代の

吉澤英子先生の思い出

渡戸一郎

(東京ボランティア・市民活動センター運営委員長)

「公私協働」の理念にもとづく東京都ボランティア・コーナー開設（1973年）の翌年、同コーナーの担当員となった私は、吉澤先生にお目にかかることになりました。当時、コーナーは渋谷駅至近のビルにあり、日中は東京都社会事業学校の卒業生の会（泉の会）の女性たちが交代で担当員をしていましたが、夜間も開設することになり、私を含む大学院生2名がリクルートされたのです。



コーナー初代運営委員長だった吉澤先生は、40代前半の働き盛り。東京都ボランティア団体推進協議会などに、例のユーモア交じりのハツラツとした姿勢で臨み、都や民間団体等との連絡調整、ボランティア講座の企画や関連資料の整備、リーフレットや啓発資料の作成など、草創期のコーナーづくりに鋭意取り組まれていた姿が印象に残ります。また、コーナー主任だった渡辺松子さん（前東京YWCA総主事）の呼びかけで、元コーナー相談員も交えた「ボランティアリズム研究会」が78年から3年間

続き、担当員を辞めた後も、私はコーナーにはよく通っていました（ここには吉澤先生の秘蔵つ子の内藤美登利さんも参加されていました）。

さて、コーナーは1981年、東京都社会福祉協議会（以下、東社協）に移管され東京ボランティア・センターになりましたが、初代所長には吉澤先生が引き続き就任されました。東社協移管に際しては「公私協働」の担保をめぐって議論もありましたが、吉澤先生が所長となることで、理念の継承が図られたのだと思います。運営委員長は仲村優一先生。研修などの小委員会が次々に立ち上げられ、私はセンターの情報誌『ネットワーク』づくりに参加。吉澤先生は東洋大学教授としても多忙な時期で、直接お目にかかる機会は少なくなりましたが、たまにセンターでお会いすると、必ず「お元気？」と声をかけていただきました。

過日、「故・吉澤英子先生一周年の集い」があり、先生にゆかりのある多方面の方が先生を偲びましたが、東京のボランティア活動推進のど真ん中に先生がいらしたことを改めて感じました。



故・吉澤英子先生一周年の集い(2025年1月13日東京ボランティア・市民活動センターにて)。奥左から3人目が筆者。

■吉澤英子（よしざわ・えいこ）
渋谷区生まれ。高等女学校時代に終戦、戦災孤児の救護活動を行う。日本女子大学社会福祉学科卒業後には障害児療育キャンプや横須賀基督教社会館の夏季学童保育事業等に携わる。東京ボランティア・センター初代所長（1986）。東洋大学教授を務めた後、大正大学教授（1988～2004）。中央児童福祉審議会委員ほか児童家庭福祉に関わる委員を歴任。大正大学名誉教授。2023年12月逝去（享年94）。

地域の居場所づくりに関する実態調査2024 〔速報版〕がまとまりました！

調査主体 東京ボランティア・市民活動センター

地域の居場所づくりについて、これまでは都内の区市町村ボランティア・市民活動センターを対象に行っていました。今回は1都3県（千葉県・神奈川県・埼玉県）の多様な中間支援組織*1に拡げて実施しました。

地域の居場所づくりの活動に対する支援の現状を把握し今後の支援の充実をはかること、しいては地域の孤立防止やつながりづくりに役立てることを目的としました。

支援を行っている（主な事業及び事業の一部）49・8%、行っていない（検討中及び予定なし）49・2%となり、約半数の法人が

支援を行っている」と回答しました。

支援を行っている」と回答しました。支援を行っている」と回答した法人には、支援の内容や支援体制（職員数や予算）、支援にあたって不足する資源などを具体的に聞きました。今回の調査は、有効回答数287件（調査票配布先762件）と高い回収率となりました。調査にご協力をいただいた法人のみなさま、ありがとうございました。調査結果の分析は2025（令和7）年度に行って広く発信していく予定です。

*1 ボランティア・市民活動センター、テーマ型中間支援NPO、まちづくりセンター、国際交流協会、地域生活協同組合、保健所、民間助成財団、住宅支援等公社、空き家相談窓口



速報版



大学におけるボランティア活動支援に関する 全国実態調査〔速報版〕を発表！

調査主体 東京ボランティア・市民活動センター

全国の4年生大学・短期大学を対象にボランティア活動支援の実態について調査し、2025年3月に速報版を発表しました。前回調査を2019年に実施しており、今回、コロナ禍を経た変化も聞いています。

調査内容については、8大学のボランティアセンターのコーディネーターと一緒に質問項目等を検討しました。

速報版では、基礎的な調査項目、前回調査と変化があった項目、新設の調査項目を中心に抜粋して掲載しています。調査結果では、ボランティア活動支援を主たる業務として担当する部署がある大学等では、学生スタッフがいる大学等が半数近くに及んでおり、学生による積極的な活動が展開される傾向にあることが分かりました。

また、自由記述を見ると、地域からのボランティア募集の依頼は増加の傾向が見られるものの、高校時代をコロナ禍で過ごしてきた

学生にとって活動に参加するかどうか、社会状況や経済状況からアルバイトに時間を割かなくてはいけないなど、様々な課題も見えてきます。調査にご協力をいただいた大学等のみなさま、ありがとうございました。詳細な結果の報告書は2025（令和7）年度に作成予定です。



速報版



一人ひとりの市民が自らの想いで、地域や社会の問題・課題に関わる「市民社会」をめざします。

東京ボランティア・市民活動センター

Tokyo Voluntary Action Center (TVAC)

東京エリアを中心に、さまざまな団体や機関とネットワークしながら、
多様なボランティア活動、市民活動の推進・支援をしています。

TVACの活動

ボランティア・市民活動を
広げる

ボランティア・市民活動への
参加をすすめる

ボランティア・市民活動団体を
支える

ボランティア・市民活動団体
との協働を広げる



TVACをぜひご利用ください



- ・ボランティアへの参加や募集、グループや団体の設立・運営相談
ボランティア活動の参加や、市民活動団体の運営などについて相談できます。
- ・印刷機・作業機材の貸し出し
印刷機、紙折り機、点字プリンターなどが安価で利用できます。
- ・会議室の貸し出し (Free Wi-Fi)
ボランティアグループや市民活動団体に無料で会議室を貸し出ししています。
- ・書籍・作品の展示販売
センター発行の資料や書籍、市民活動団体、作業所などが発行している資料や書籍、作品等を販売しています。
- ・オープンスペースの利用 (Free Wi-Fi)
ちょっとした少人数のミーティングなどに、センター内のフリースペースを利用できます。
- ・ボランティアと市民活動の図書室
ボランティア・市民活動・NPOに関する書籍など15,000点以上を自由に閲覧できます。
- ・情報誌『ネットワーク』の発行
ボランティア・市民活動の最前線をご紹介。WEBでも見られます。



ボラ市民ウェブ

ご利用案内 アクセス&コンタクト ボラ市民WEB



各種SNS

Instagram



tvac.tokyo

X



@tokyovolunteer

Facebook



tvac.network

YouTube



VolunteerCenterTVAC

ネットワーク

本誌のバックナンバーは
右記からご覧ください。



～本誌394号より～

読者の声



読者の皆さんからいただいたアンケートの一部をご紹介します。

【特集】

みんなが自由に移動できる社会を！

・バリアフリーマップの作製は、障がい者・高齢者の方だけではなくて日本語が読めない方など、さまざまな方を想定しているというのは新たな発見でした。

・人は移動することで他の人たちと交流が増えて、文化の向上につながり豊かな社会が創られること知りました。活動に感謝です。

◆せかいをみる

ミネアポリス今昔物語【1】

・日本のボランティアに対するハードルは高く、意識を変えていくのがボランティアセンター職員の使命。ただ、若い世代の意識は確実に変わってきていると感じます。

・「ボランティアが当たり前な暮らし」というのがとても良いですね。日本ではボランティアを特別なことと考える人が多いと思います。多くの人に読んでほしいと感じました。

◆セルフヘルプという力

中国「帰国者」・家族とともに歩む
練馬の会（同歩会）

・本誌を読まなければ知らなかった（学校で習っていたならば忘れていた）ことを教えていただきました。
・ようやく祖国に帰国できて、たくさ

んの苦勞をされてきたことを記事から知れました。戦争に翻弄された人たちを地域の力でサポートしていることが素晴らしい。

◆【東京しまじま物語】新島式根島の巻

・もやいという場所が人と人とのつながりを大切にしていることが伝わりました。特に「ちびっこ画伯」は高齢者の会話の種を生み出すだけではなく子どもと高齢者をつなぐ取り組みとしていいと感じました。

◆【編集委員企画】

私の社会貢献活動履歴 後編

・「困っている人を前にして無視できない」は、使い古された言葉ながら、当たり前ではない世の中だと感じています。「余計なお世話」を焼き続ける上杉さんはすごいですね。

◆いいものみいつけた！

52とおりの物語

・普段の買い物では、作り手の思いまでなかなか思い起こせません。なので作り手のこだわりや思いが知れてよかったです。

お気軽にご意見・ご感想をお寄せください。



本誌で使用しているQRコードは、(株)デンソーウェブの登録商標です。

東京ボランティア・市民活動センター

(TVAC: Tokyo Voluntary Action Center)

<https://www.tvac.or.jp>

東京ボランティア・市民活動センターは、ボランティア活動をはじめとするさまざまな市民の活動を推進・支援しています。どうぞご利用ください。

利用

会議室 会議室A・B(各40人)・C(15人) 無料
※会議室AB通し(80人)
貸出機材 印刷機(1台)紙持ち込み、点字プリンター 他
申込み 4ヶ月前から電話で受付(03-3235-1171)

情報提供

最新のボランティア・市民活動情報は、センターのホームページでご覧いただけます。http://www.tvac.or.jp/

開所時間

火曜日～土曜日：9時～21時／日曜日：9時～17時
(月・祝祭日・年末年始除く)

交通アクセス

JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線
出口B2b)飯田橋駅下車

ネットワーク

発行人 山崎美貴子

編集委員 上杉貴雅(メイクスマイル/オレンジフラッグ)

江尻京子(東京・多摩リサイクル市民連邦)

片岡紀子(患者スピーカーバンク)

亀川悠太郎(葛飾区社会福祉協議会)

小池良実(岡さんのいえTOMO)

長畑 洋(TDU-隼野大学)

中原美香(NPOリスク・マネジメント・オフィス)

野村美奈(武蔵野会 リアン文京)

室田信一(東京都立大学)

TVACの公式ソーシャルメディア



編集・発行：東京ボランティア・市民活動センター

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1

セントラルプラザ10階

TEL：03-3235-1171 FAX：03-3235-0050

E-mail：nw@tvac.or.jp

印刷：島津印刷(株)

デザイン：東京ボランティア・市民活動センター／島津印刷(株)

表紙イラスト：フローラル信子

2025年4月20日発行(通巻No.395)

ISBN 978-4-909393-61-6 C2036

定価400円(本体364円+税10%)

本誌掲載記事の無断複製・転載を禁じます。





①コーヒー豆の選別 → ②焙煎(ばいせん) → ③ミル掛け(粉にする) → ④粉入れ



⑤パッケージの印刷 → ⑥外袋入れ → ⑦シーラー掛け(密封) → ⑧ラベル貼り



みんなの(手)を経て
ついに完成!
美味しいコーヒーで
素敵なりラックスタ
イムをどうぞ♪
1,000円/6種セット



ECサイトで24時間365日ご購入いただけます! 目指せ
Amazonギフトランキング第1位! 1,000円~3,680円

いいもの みい~つけた!

このコーナーでは、ボランティア・
市民活動・福祉施設のグッズや作品
を紹介します。

Vol.
53

可愛い♪美味しい♪嬉しい♪ アニマルコーヒー

店名である『HiwaHiwa/ヒヴァヒヴァ』はハワイの言葉で、『大切な/お気に入りの』という意味を持ちます。わたしたちの作る自家焙煎コーヒーは、種類ごとにいろいろな動物のイラストが描かれたパッケージに入っています(可愛い♪)。コーヒーはハイグレードな豆を使用し、一粒一粒丁寧に選別しています。傷があったり、未成熟な豆を取り除くことにより、雑味の無いスペシャルな味わいが生み出されます(美味しい♪)。

主な販売場所はAmazon/Yahoo!/楽天などのECサイトです。母の日や父の日、誕生日やXmas、転勤や引越しなど、大切な誰かやお世話になったあの人へ、ギフトとしてご購入いただく方が多くいます(嬉しい♪)。

農家でもないわたしたちが毎日美味しいお米を食べられるように、『働く』とは誰かの役に立つことなんだと思います。わたしたちは、日本中のみんなに『可愛い♪美味しい♪嬉しい♪』をお届けすることをお仕事としています。

社会福祉法人江戸川菜の花の会 江戸川かもめ第二事業所(分室) HiwaHiwa 〈就労継続支援B型事業所〉

場 所 〒134-0083
東京都江戸川区中葛西2-7-2

お問合せ TEL 03-6808-9211
FAX 03-6808-9212

MAIL hiwahiwa@edogawa-nanohana.or.jp

WEB

<https://www.edogawa-nanohana.or.jp/jigyousho/view/27>



WEB

作り手インタビュー



工程のひとつひとつに、様々な人が手をかけてできあがる、『いいもの』。制作にまつわるお話をうかがいました。

選りすぐりの珈琲豆でつくるドリップバッグ 喜んでもらえることが『働く』原動力

入口を入った瞬間、珈琲の香りが漂う店内。シャーッと豆を流し込む音が響きわたります。自家焙煎珈琲のお店HiwaHiwaを訪ね、事務局の岩崎健太さんにお話をうかがいました。



6種のギフトボックス。デザイナーによる動物のイラストが目を惹く。

一 珈琲豆の焙煎に取り組むことになった経緯を教えてください。

わたしたちの事業所は親の会からはじまりました。江戸川区内で長く活動していた4法人がひとつになって『江戸川菜の花の会』が設立されました(2002年)。当時はお菓子の箱作りなど内職がおもでしたが、安定した収入をめざして自主製品を考えて、珈琲豆の焙煎に取り組むようになりました(2016年)。パンや焼き菓子里に比べると作業の効率が良く、最近は珈琲を飲む習慣が身近になってきたことも追い風になって仕事として定着しています。



連携の良さがひかる作業。卓上のカラフルなカップは珈琲粉を分配する器。扱う手さばきが見事。

一 みなさん、とてもスムーズに作業されていますね。

はい、現在7人のみなさんが働いていますが、丁寧な仕事ぶりには感心させられます。作業はまず、選別した生豆を焙煎機でローストしその豆をミルで挽いて粉にします。粉は定量を量って内袋に分配してシーラーで閉じます。そしてイラストを印刷した外袋に入れて再びシーラーをかけ、最後に商品ラベルを貼って完成です(右頁参照)。さらに、お試用パックとして6種類の珈琲ドリップバッグをセットする担当もいます。

一 販売はどうしていますか。これからの展望と合わせて聞かせてください。

現在は、AmazonなどのECサイト*を活用した販売が中心です。お試用パックは『人気ギフトランキング』で5位になったこともある人気商品なんです。わたしたちのように営業があまり得意ではない福祉施設にとって、ECサイトは商品の魅力を伝えられる点でメリットを感じています。

そのほか、地域のイベントでの出張販売やこのお店でも販売します。店頭販売は地域とのつながりを大事にしたいと考えて続けています。おかげさまで商品は喜ばれていますし、それにとまってみなさんの働く意欲もあがっています。その気持ちに応えて、商品のバリエーションを増やしたり、出張販売先を広げるなどしていきたいと思っています。

*ECはElectronic Commerce(エレクトロニック・コマース)の略。電子商取引をおこなうWEBサイトの総称。この場合はネットショップ。



Session! TOKYO 2024(主催:東京都社会福祉協議会知的発達障害部会)に出席@飯田橋。昼休み時は付近で働く人たちにでにぎわった。

写真提供: 全てHiwaHiwa

社会福祉法人清水基金

清水基金では障害福祉サービスを提供する社会福祉法人・NPO法人に対する
助成事業および職員への研修事業などを行っています。

2025年度 募集のご案内

社会福祉法人助成事業

- 対 象** 障害者の福祉増進を目的として第一種または第二種社会福祉事業を営む社会福祉法人であり、2025年4月時点で法人設立後1年経過し、開設後1年経過した事業所
- 申込期間** 6月1日～7月20日(17時迄)
- 内 容**
- ・助成物件 利用者に必要な機器・車輛・建物等
 - ・自己負担率 総費用の30%以上
 - ・助成金額 1法人原則1物件、70万円～1500万円
 - ・決定時期 2026年1月末

NPO法人助成事業

- 対 象** 障害者の福祉増進を目的として第二種社会福祉事業を営むNPO法人であり、2025年4月時点で法人設立後3年経過し、開設後1年経過した事業所
- 申込期間** 5月1日～6月20日(17時迄)
- 内 容**
- ・助成物件 利用者に必要な機器・車輛・建物等
 - ・自己負担率 総費用の20%以上
 - ・助成金額 1法人原則1物件、80万円～1500万円
 - ・決定時期 2026年1月末

文化芸術活動特別助成事業

- 対 象** 障害者の福祉増進を目的として第一種・第二種社会福祉事業を営む社会福祉法人及びNPO法人であり、2025年4月時点で、社福は法人設立後1年経過し、開設後1年経過した事業所、NPOは法人設立後3年経過し開設後1年経過した事業所
※他法人とのグループによる申込みも可
- 申込期間** 5月1日～6月20日(17時迄)
- 内 容**
- ・助成物件 障害者の文化芸術活動に必要な道具・楽器・機器等
 - ・自己負担率 総費用の10%以上
 - ・助成金額 1法人(1グループ)1案件、30万円～200万円
 - ・決定時期 2026年1月末

海外研修事業

- 対 象**
- ・社会福祉法人・NPO法人に所属し、障害福祉サービス等に従事しており、海外の障害福祉等から学ぶ課題を持ち、意欲的に挑戦する方
 - ・実務経験5年以上、年齢25～60歳
- 申込期間** 9月1日～10月31日
- 内 容**
- ・募集人数 5名程度
 - ・助成金額(1名あたり) 105万円～225万円
※研修期間等により助成金額を設定
 - ・決定時期 2025年12月
 - ・研修期間 2026年9月～11月
※研修期間は研修生自身が設定可(30～90日間)

新規事業

地域連携研修助成事業(法人主催型)

障害福祉事業を行う法人が主催し、他の法人や地域の関係機関、地域住民等が参加する研修を対象とし、研修の実施に直接必要な費用(物品費、旅費、謝金等)を助成する

- 対 象** 障害者福祉の増進を目的として社会福祉事業を営む社会福祉法人またはNPO法人
- 申込期間** 4月21日～5月23日
- 内 容**
- ・助成金額 10万円～50万円
 - ・決定時期 2025年6月
 - ・研修実施期間 2025年7月1日～2026年1月31日

新規事業

調査研究助成事業

障害福祉の支援現場における実践的な調査研究活動を対象とし、調査研究の実施に直接必要な費用(物品費、旅費、謝金等)を助成する

- 対 象** 障害者福祉の増進を目的として社会福祉事業を営む社会福祉法人またはNPO法人
- 申込期間** 8月1日～9月30日
- 内 容**
- ・助成金額 30万円～100万円
 - ・決定時期 2025年12月
 - ・調査研究実施期間 2026年1月1日～12月31日

2025年度国内研修は2回開催を予定しています

いずれもオンラインによる申請となります。詳しくは清水基金ホームページをご参照ください。

